

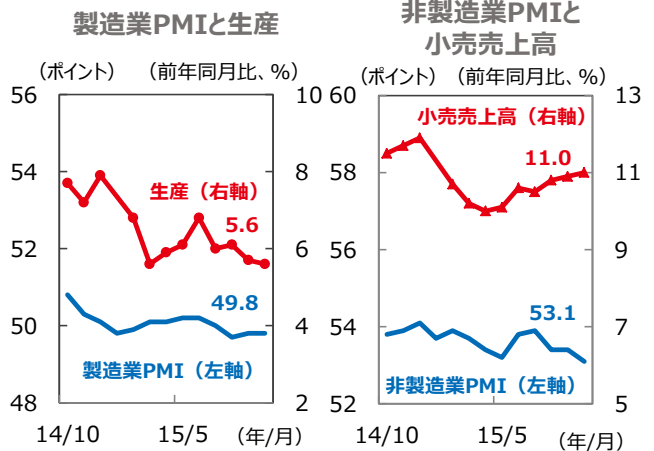
今日のトピック 最近の指標から見る中国経済（2015年11月）

製造業の下振れ続くが、非製造業が下支え

ポイント1 製造業の下振れが続く

小売などの非製造業が下支え

- 10月の製造業PMI（購買担当者景況感指数）は3カ月連続して好悪の判断の境目である50を下回り、生産は前月から伸びが鈍化しました。輸出の減少や資源価格の下落などから鉄鋼やセメント業などで生産の下振れが続いています。
- 一方、非製造業PMIは前月から低下したものの50超を維持し、また、小売売上高は持ち直しつつあります。インターネットを通じた小売売上高は前年比約3割増加し、政策効果が表れているようです。金融緩和の効果による住宅市場の底入れへの動きもあり、非製造業が景気を下支えています。

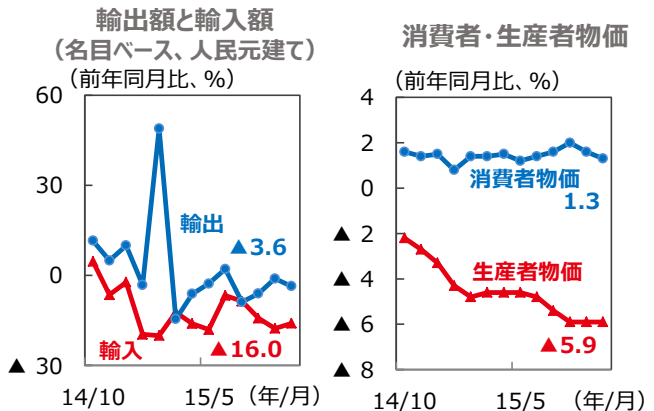


(注) データは2014年10月～2015年10月（生産と小売売上高の2015年2月は1-2月の前年同期比、2015年1月はデータなし）。数字は2015年10月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 輸出は4カ月連続の減少

物価も上昇圧力弱まる

- 輸出は4カ月連続して減少しました。中国の内需減速から世界経済が減速し、それがまた中国の輸出減少に影響するという、負の循環が懸念されます。
- 生産者物価は前年比マイナスが続いていることに加え、消費者物価の伸び率は鈍化しました。燃料価格の下落に加えて、食品価格の伸び率が縮小したことが要因です。物価上昇圧力が弱まったことで追加緩和余地が拡大すると見られます。



(注) データは2014年10月～2015年10月。数字は2015年10月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 今後5年間の年6.5%成長のため、輸出や生産の強化策を期待

- 習主席は今後5年間は最低でも年6.5%以上の成長が必要と明言しました。12月の中央経済工作会议では、こうしたことを踏まえて、来年の成長率目標と政府方針が示されると見られ、その対策とともに注目されます。
- 輸出拡大のため、新シルクロード「一帯一路」推進に一層の重点が置かれそうです。また、非製造業の下支えに加え、製造業強化のためのイノベーション促進策や、公共投資の強化なども期待され、景気の底割れは回避されると見られます。

ここもチェック! 2015年11月 2日 「5カ年計画」は中高速成長を維持（中国）
2015年10月21日 最近の指標から見る中国経済（2015年10月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。